

第30回記念 未来医療セミナー

自然免疫による病原体認識

大阪大学微生物病研究所
自然免疫学研究分野・教授

審良 静男 先生

《要旨》

哺乳動物には2つのタイプの免疫システム、自然免疫と獲得免疫が存在する。自然免疫は、従来まで非特異的な免疫反応と考えられ、哺乳動物においては獲得免疫の成立までの一時しのぎと考えられてきた。しかし、最近、自然免疫系の細胞も、Toll-like receptor (TLR) と呼ばれる膜型受容体を用いて病原体を特異的に認識して、炎症・免疫応答をひき起こすことが判明した。TLR は、細菌、真菌、原虫、ウイルス由来の成分によって活性化され、あらゆる病原体の体内への侵入を感知する。最近になって、さらに TLR 以外にも病原体の侵入を感知する細胞質内に存在する受容体の存在もあきらかとなった。講演では、自然免疫系による病原体の認識機構について述べてみたい。

日 時 : 2007年5月23日(水) 18:00より

場 所 : 大阪大学医学部附属病院外来棟4階 第1カンファレンス室

連絡先 : 未来医療交流会(大阪大学医学部附属病院未来医療センター内)

Tel: 06-6879-6557/6552, Fax: 06-6879-6538

E-mail: koryukai@hp-mctr.med.osaka-u.ac.jp

協 賛 : 21世紀COE「細胞・組織の統合制御にむけた総合拠点形成」

-Center for Integrated Cell and Tissue Regulation-